

# 白河の翼奇

第 8 5 号

令和8年2月28日  
発行人：支部長 鈴木 且雪  
※題字：白川仁一先生  
※印刷：さとう総合印刷

## 「69歳の手習い顛末記」 西白河副支部長 角田 彰三郎



今年度より副支部長を拝命し、支部運営のお手伝いをさせていただくこととなりました。あわせて、令和8年度には本支部が県大会を担当することも決まり、その準備に向けて動き始め

ています。本来であれば、県大会の開催に向けては複数年をかけてじっくり準備を進めるのが通例ですが、今年度は支部長と二人の副支部長が同時に交代したこともあり、どうしても準備のスタートが遅れてしまいました。その分を取り戻すべく、支部一丸となって取り組んでいるところです。

先日は、今年度の県大会を開催した御蔵入交流館（会津大会）を視察し、運営の工夫や参加者対応など、多くの学びを得ることができました。特に、今年度の大会ではQRコードを用いたGoogleフォームによるアンケートが実施されており、その便利さと効率の良さを目の当たりにし、「これは自分たちも取り組まなければならない」と強く実感しました。

私が所属する総務担当は大会のアンケート係（アンケート内容作成・集計）を担当することになり、Googleフォームを使ったアンケート作成に挑戦することにしました。しかし、当初は、誰もGoogleフォームの操作方法が分からず、不安ばかりが先に立ちました。

ちょうどその頃、中学校の同級会で古稀の祝いの集まりがあり、出欠確認にQRコードを用いたGoogleフォームが使われていました。同級生が難なく使いこなしている事に触発され、「自分もやってみよう」と気持ちが奮い立ち、六十九歳の手習いとして学び始めました。

最初は戸惑いもありましたが、挑戦してみると意外と分かりやすい方法があり、一つひとつ進めるうちに理解が深まりました。年齢に関わらず、分からないことに向き合い、新しいことに挑戦する姿勢の大切さをあらためて感じたところです。さらに、白河第一小学校の教頭先生が私のために丁寧なマニュアルを作成してくださり、そのおかげで無事にアンケートフォームを完成させることができました。

余談になりますが、10年前に健康維持のために購入したエアロバイクの集計メーターが突然動かなくなるという出来事がありました。メーカーに修理を相談したところ、2万円以上かかるとの返答で、購入時とほとんど変わらない金額に驚き、どうしたものかと悩んでいました。そんな折、YouTubeに症状別の対策動画が掲載されていることを知り、内容をよく確認しながら試してみたところ、1,500円ほどの部品代だけで自分で修理することができました。思わぬところで新しい知識を得ることができ、挑戦してみるものだと実感した出来事でした。

今回の一連の経験を通して、69歳になってもなお、新しいことに挑戦することの意義を深く感じています。最初は不安があっても、一歩踏み出してみれば、意外と道が開けてくることがあります。そして、その背後には、周囲の支えや、思いがけない情報との出会いがあることにも気づかされました。

69歳の手習いは、決して遅すぎることはなく、むしろ新しい世界を広げてくれる貴重な機会です。これからも、分からないことに出会うたびに立ち止まらず、挑戦する気持ちを忘れずに歩んでいきたいと思えます。

県大会の準備をはじめ、支部の活動に微力ながら力を尽くしつつ、学び続ける姿勢を大切にしていきたいと思います。

《おめでとうございます》

この度、佐川和久先生が全国連合退職校長会より「賀詞」(満88歳)を受けられました。

また、併せて瑞宝双光章も受章(叙勲)されております。

佐川先生のこれからますますのご健勝をご祈念申し上げ、心からお祝い申し上げます。



「佐川和久先生米寿・瑞宝双光章受章  
おめでとうございます」

圓谷 厚子

令和6年秋、矢吹町立中畑小学校創立130周年記念式典が開催されました。体育館に案内され席に着いたその時、私が教頭としてご一緒させていただいた佐川和久校長先生とお会いすることができました。照明が落とされた館内でしたが、お元気そうな校長先生とお話することができ、あの当時、ご指導いただいた事が懐かしく思い出されました。その中で、教頭として、校長先生から教えていただいた事がたくさんあります。

その中の一つは、子どもたちの中には個性的で自由な動きをする子がいることもあるのですが、校長先生が朝の活動の時間に、気がつく子どもたちの様子をそっと見守ってくださっているのです。子どもたちが、穏やかな気持ちで一日の始まりを過ごすことの大切さを知りました。子どもたちの様子から、今どんな支援が必

要なのかを考え、行動して下さった校長先生から多くを学びました。

また、一斉下校のときには、支援が必要な班の子どもたちと一緒に歩き、子どもたちとのコミュニケーションを大切にしていました。いろいろな場面でいろいろな立場の人たちが子どもたちに関わっていけば、学級経営に大きな力になることを教えていただきました。

職員室での先生方との会話は、常に和やかな雰囲気、皆が、校長先生の自然体での接し方に引き込まれてしまうようでした。新しい学校行事等を検討する時は、それぞれの考えを受け止めてくださり、各先生方が自信を持って乗り切ることができました。

2年間一緒に勤務した中で、子どもたちに寄り添い自ら行動して下さった校長先生。そして、温かい大きな心で包み込み、導いて下さった佐川和久校長先生に心より深く感謝いたします。

どうぞ、これからも楽しい人生を過ごしていただきたいと思います。

現職校長と退職校長との交流会

昨年7月25日(金)東京第一ホテル新白河において、小中高の現職校長と退職校長との交流会が行われました。



鈴木支部長の主催者あいさつの後、ご来賓の福島県教育庁県南教育事務所長平山明裕様、福島県市町村教育委員会連絡協議会西白河支

会理事長芳賀祐司様より、ごあいさつをいただきました。

懇談会では、まず、大戸副支部長より退職校長会の現状、活動についての説明を行い、会への理解と協力を呼びかけました。

次に、「学校現場の現状と課題」と題し、小学校を代表し、中畑小学校長金子秀則先生、中学校を代表して、大信中学校長吉田頼信先生より発表をいただきました。

金子先生の発表では、教育目



標の紹介の後、150周年記念式典、学力向上、学級経営、教員の指導力向上等の課題について、学校の様子等を交えて発表がありました。

吉田先生には、自己マネジメント力育成、自治的な生徒会活動、タブレット端末の活用、多忙化解消、不祥事防止など課題解決に向けての取り組みを、生徒のインタビュー等を交えながら発表いただきました。



その後の懇親会は、退職校長会を代表して、齋藤邦光先生が乾杯の発声を行いスタートしました。現職の校長先生方に今の学校の様子を伺ったり、かつての同僚と懐かしい話に花を咲かせたりと、十分に懇談し懇親を深めることができました。

## 「退職校長会懇親旅行に参加して」

佐川 栄

福島交通観光のツアーに参加して、群馬県と埼玉県方面に1泊2日の旅行を満喫してきました。私達退職校長会からは9名が参加、ほぼ満席の大型バスは11月11日（火）に白河を出発。天気は快晴、気持ちはワクワクです。

東北自動車道から北関東自動車道で群馬に入ると、雄大な赤城山・榛名山・浅間山が遠望でき、その裾野から市街地が広がり、ここが上州かと頷きました。前橋市から沼田市に向かう途中には、大きな河岸段丘上に発達した農地・家並みが続いていました。沼田市に到着して昼食、次にビニール袋に野菜の詰め放題。早速お土産ができました。次に中之条町を通りハッ場ダムを見学、高さ116メートル上からの眺めは圧巻でした。



初日の最終目的地である草津温泉にほぼ予定

通り到着、早速湯畑に行き多くの観光客と源泉の香りを味わい、湯もみと踊りのショーも見ました。草津温泉ならではの歴史・伝統が十分に感じられました。夕食も美味、部屋でゆったりと酒宴、一日の疲れを癒しました。翌日の朝食時、周囲の山々の雪景色は感動的でした。

2日目は一路埼玉県川越市に向かい、昼食は名物の「うな重」を味わいました。

次に名所蔵造りの町並みを散策し「時の鐘」菓子屋横丁を見て回りました。



校外学習の小学生が、店員さんに質問している姿もありました。時間があつたので、私達は川越城の本丸御殿まで足を運びました。平日でも車がゆっくり走るほどの人出にびっくりしました。江戸時代からの情緒が感じられる町で、すばらしいと思いました。全員無事に白河に到着、福島とは違う上州の一面、草津温泉の匂い、川越の歴史等、素晴らしい思い出ができたこの旅行に感謝し、解散しました。

## 「夢の続きは”学級担任”」

小玉 昭男



「私には、夢の続きがあります。」

「もう一度学級担任をしたい。」

定年退職を迎えた5年前、退職校長会報にこのようなことを書かせていただきました。また、退職時のあいさつや退職後に会う人たちとの雑談の中でも『学級担任への願望』を繰り返しアピールしてきました。

「学級担任！？…無理でしょう。」

ほとんどの方が、これを“戯言”としか受け止めていませんでした。笑い話でした。

常勤講師として迎えた5年目の春、ついに夢が叶う日がやってきました。中島村立吉子川小学校の5年生の担任です。思い返せば、私が学級担任をするのは『34年ぶり』です。担任をすることが決まってから子どもたちに出会うまでの期間は、『教師という仕事に憧れていた自分』を呼び戻す貴重な時間でした。

4月7日、子どもたちとの出会いの日です。毎年多くの子もたちと出会ってきた私ですが、“自分の教室”で“自分が担任する”子どもたちとの出会いは全く違います。喜びと心地よい緊張が交差する幸せな時間でした。

「笑って 笑って 5年生！」

これが、学年スローガンです。私の「夢の続き」が始まりました。

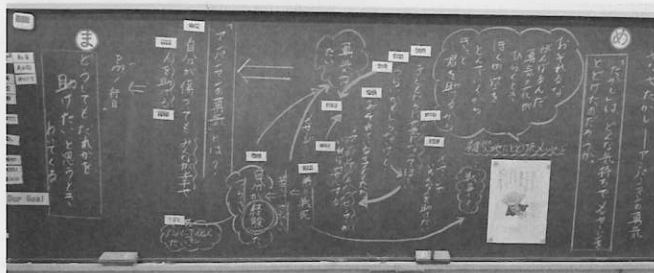


しかし、34年のブランクには、夢が叶った喜びとともに“現実の厳しさ”が伴います。学習指導も生徒指導も簡単ではありません。国語、

算数、社会科はもちろん、音楽、図工、体育、外国語、道徳、総合、学活（理科と家庭科は入分科）もすべて担任が授業をします。学級通信の作成や保護者対応もします。

「みんなの考えが繋がる楽しい授業にしよう」

私が考える学級経営の基本は、全員が参加する『楽しい授業』の実践です。そのために、自分ができる授業の準備は何でもやるようにしています。国語、算数、社会科、道徳については毎時間の『板書案』を作成し、外国語については、ALTの先生との分担を明確にするために『略案』を作成しています。



思うように授業を進めることができずに落ち込んだり、自分の思いが子どもたちに伝わらずに悩んだりすることもしばしばです。それでも学級担任には、学級担任でしか味わうことができない『喜びとやりがい』があります。それは、子どもたちとの心の通い合いと子どもたちの日々の成長の実感です。

65歳の誕生日、子どもたちからの手紙です。

- ・私は、授業中に声を出すのが苦手でしたが、小玉先生もがんばっているから、私も声を出すのをがんばっています。
- ・2学期から授業がレベルアップしてきて楽しいです。5年生の心を1つにして、「笑って笑って5年生」に近づいていきたいです。
- ・先生の年齢は、歳かも知れませんが、性格はぜんぜん年寄りじゃありません。むしろ、みんな思いのやさしい人だと思います。

教員人生を担任で終われることに感謝です。

### 《ご冥福をお祈り申し上げます》

福島 俊男先生 令和7年12月 3日ご逝去  
 緑川 利衛先生 令和8年 1月19日ご逝去  
 八巻 嘉男先生 令和8年 2月 6日ご逝去

### 《編集後記》

元号「令和」も、すでに8年目。県退職校長会西白河大会を控えた今年が、「8」にちなんで未広がり年になりますように。 広報係